



発行：豊町東町会 編集：事務局広報部
お問合せ 豊町ふるさと会館 Tel & Fax 04-7169-1101

今号のご案内

- 災害と避難生活
- 夏祭りの話題あれこれ
- レベルアップ金管クラブ
- 水戸街道探検ツアー

災害と避難生活を考える ～ 備えがあれば、自宅避難も可能 ～

柏市地域防災リーダー講習会（柏市主催）が 6 月 29 日に開かれ、当町会自主防災組織から遠山幹夫さん、松崎力さん（ともに副会長）が受講しました。その報告をもとに、さまざまな講習のテーマの中から「災害と避難生活」について、考えてみます。

アンケートが示す備えの大切さ



講習会で示されたデータに、東日本大震災の際「避難所に行った理由」「自宅で避難できた理由」というアンケートの結果がありました。仙

台市内で「津波の被害がなく」「建物被害が比較的少なかった」2 地区を対象にアンケートとヒアリング調査したものの。

＜避難所へ行った理由＞（総数 390 世帯）は「電気、水道、ガスなどインフラの停止」が半数以上。「余震、本震への恐怖」が 40～50%、「室内が家具などで混乱」が半数。

これに対し＜避難所へ避難しなかった理由＞（総数 1,092 世帯）は「トイレが使えた」45%、「備蓄食糧が足りた」40%、「備蓄飲料水が足りた」30%。さらに「自宅損壊なし」70%、「室内の混乱なし」50%弱でした。

この結果からわかることは、食糧や飲料水の

備蓄があり、室内の混乱がない状態なら、自宅での避難が可能ということ。改めて備蓄の励行と、家具転倒防止、耐震工事の大切さがわかります。

一石二鳥のローリングストック法

食糧や飲料水は最低でも家族人数分の 3 日分が必要。できれば 1 週間分は確保したい。災害用の食糧を大量に用意することだけが備蓄の手法ではありません。



缶詰、レトルト食品などふだん利用している食品を多めに購入します。消費したらその分を補充すれば、常に一定量の食品を備蓄することができます。これを「ローリングストック（回転備蓄）」法といい、消費期限切れや保管スペースの問題を解消して、いざという時に役立てられる一石二鳥の備蓄法といえます。

忘れないで！トイレ対策



食糧、飲料水の備蓄とともに大切なのはトイレ対策。水洗トイレは使用不能になるので、簡易トイレを用意しておくのも。組み立て式の便器、袋、消臭

剤、凝固剤などをセットしたものが市販されています。

こうしたものの用意がない場合は、自宅にあるものを利用しましょう。市指定のゴミ袋（45 リットル程度）を 2 枚重ねて便器にかぶせる。新聞紙をくしゃくしゃにして袋の底に敷き詰める。用を足したあと、消臭剤などがあれば使い、また新聞紙をかぶせる。内側の袋を取り出し、空気を抜いて口をかたくしぼる。燃やせるゴミとして分別ゴミで出す。こんな方法もあります。

これだけは備えておこう！

6 月に行われた 2 区、3 区の災害図上訓練に参加したみなさんが列記した「これだけは備えておきたいアイテム」です。参考に。

食品：水（飲料水、調理用）、主食（レトルトご飯、麺）、主菜（缶詰、レトルト、冷凍食品）、缶詰（果物など）、野菜ジュース、加熱せずに食べられるかまぼこ、チーズ、チョコレートなど

生活用品：生活用水、持病の薬、薬手帳、救急箱、ティッシュペーパー、ライター、カセットコンロ、ガスボンベ、ゴミ袋、大型ビニール袋、簡易トイレ、ラジオ、懐中電灯、乾電池、小銭（公衆電話用）など

祭

盛況でした 納涼夏祭り大会

— 写真で見る祭りの風景 —

恒例の納涼夏祭り大会が8月23日、24日の2日間、豊小学校校庭で開かれました。初日のスタート時、少し雨に降りましたが、のべ7000人を越す地域の人たちが参加して、盛況のうちに無事終了しました。今年は、盆踊りに参加する人が増えて祭りの雰囲気も熱気を感じました。各区や団体の模擬店も長蛇の列が。祭りのあれこれを写真を中心に報告します。



● 踊る人が増えました



祭りといえば欠かせないのが盆踊り。浴衣姿で踊る人がいてこそ、日本の祭り。例年踊り手が少なく、ちょっぴりさびしい思いをしましたが、今年は、踊る人の多いのが目につきました。子供の参加も目立ち、模擬店で忙しい各区や団体の人たちも、交代で踊りの輪に加わっていました。

● 祭りの前に踊りの特訓



子供会会長の本部洋子さんら、町会の女性陣が中心になって、踊りの無料講習会を6～7月にかけて4回実施。旭水流師範の鶴見祐子さんの指導で「柏おどり」を特訓。町外からも多くの人々が訪れて練習に汗を流しました。祭りの踊り手が増えたのも特訓のおかげ？

● 子供も負けずにパフォーマンス



みんなで踊ろう！ そろいのハッピー、ハチ巻きの小学1・2年生が「YMCA」、3・4年生が「ドッコイショ」、さいごは全員で「パブリカ」を元気に踊ってくれました。

● 踊りを盛り上げた柏元気太鼓



踊りといえば太鼓。「御響太鼓」の大人の力強いリズムとともに、子供会「柏元気太鼓」の若々しい、元気な演奏も踊りを盛り上げました。小学2年生から6年生までの12人が「柏おどり」「パハマママ」「大東京音頭」などの曲に合わせて、日ごろの練習の成果をたっぷりと見せてくれました。



● レベルを上げた金管クラブ



豊小金管クラブの4・5・6年生34人が「名探偵コナン」「ジョイフル」「ハナミヅキ」「豊小校歌」などを演奏。昨夏からプロのジャズバンド「スイング・ビート チーム♪HIROSHI」のバンドマスターでドラマーの石川広志さんの指導を受けており、レベルが上がっている印象。

石川さんも「楽器を通してコミュニケーションができるようになれば素晴らしい」と期待しています。児童らは石川さんのバンドとのコラボの実現を楽しみにしています。

● 神輿のお練り



2日目の午後3時に、高橋蔭工業の駐車場を出発。ハッピー姿の子供会の児童らの先導で東武線の踏切手前を右折し、豊小学校校庭までを2回の休憩をとり、約1時間、練り歩きました。担ぎ手はPTA、おやじの会のお父さん、成年部、消防団、それに“おみこし王国”のつくしが丘町会からのお手伝いも。

● 栄町町会の神輿を応援



一方、7月15日に行われた香取神社のお祭りでは、神輿の担ぎ手が足りないと栄町町会から応援の要請があり、当町会の成年部、おやじの会、消防団などが参加。日頃は歩いたこともない町を神輿を担いで歩きました。お疲れ様でした。

● 中学生らがボランティア



今年も中原中学校の生徒、光ヶ丘中学校の生徒や高校生、小学生らのボランティアが20人近くも参加してくれました。中学校に掲示したお知らせを見て応募したり、親に勧められたなど参加の動機はさまざまですが、会場の設営や片付け、模擬店の手伝いなどに活躍してくれました。児童・生徒のボランティアは年々増えてきており、将来の地域活動の担い手が確実に育っていると感じました。

TOP
ICS

トピックス

● 豊小へ防災グッズを贈る

ふるさと協議会から



ふるさと協議会（豊町東町会など7町会で構成）では7月31日、この地域の避難場所である豊小学校に、防災グッズを贈りました。カラーコーン20個、安全バー10本、両面テープ、ランタン、ヘッドライト、乾電池などで、災害時の避難場所開設のときに役立てられます。

● 炊飯訓練に参加を

10月12日（土）低見台公園



災害を想定し、何の準備もしない状態でごはんを炊く訓練です。防災倉庫から釜や保存してある米を出し、マキを使ったり、コンロを利用してごはんを炊きます。火加減や水加減が、じつは難しい炊飯。一度は体験しておきたいものです。午前11時ごろ、現地に集合してください。

● 豊四季開墾150年

文化祭に向け展示物を準備



今年11月17日は豊四季開拓の入植150年。幕府の放牧地上野牧（江戸川台～柏駅あたり）の広大な地域が「豊四季」と命名されましたが、いまその町名が残るのは当町会など2か所だけ。広報部が中心となって歴史資料などの整理をし、11月のふるさと協議会の文化祭へ出展する予定です。



⑩街道を旅する (5)

●庚申塔の水戸街道道標



萬満寺の山門を過ぎ、坂道を上ると八ヶ崎交差点で国道 6 号と合流。歩道橋を渡ると水戸街道を示す大きな道標があります。庚申塔の道標で、西側面に「青面金剛 左水戸街道」、南側面に「如意日呑 (によいびどん) 右印西道」、北側面に「総州葛飾郡馬橋村」と刻まれています。建立日は「文化三丙寅」(1806)とありました。

●千葉氏の守護神、蘇羽鷹神社

国道 6 号を北へ少し歩くと、二ツ木交差点の左側に蘇羽鷹神社。中世の豪族千葉氏の守護神社です。この地二ツ木台に千葉氏の居館があったとみられ、廃城後に千葉氏の加護を受けて創建されたと伝えられます。千葉氏は鬼門に曾羽鷹を祀ったとされ、転じて蘇羽鷹になったといわれています。



●一軒だけ残る旅籠「玉屋」



神社前の国道 6 号を横断して、また旧道をたどります。しばらく静かな住宅街が続く、樹木がうっそうと茂るあたりに、旧道の面影が残されています。ふたたび国道 6 号と交差し、国道を渡れば小金宿です。

やがて道路左側に一月寺 (いちげつじ) 跡のポールが。鎌倉初期に創建された普化宗の寺、いわゆる虚無僧寺でしたが、明治初年に普化宗が廃止され、一月寺も廃寺となりました。

その少し先に、やはり道路の左側に、小金宿で 1 軒だけ残る旅籠「玉屋」(鈴木家)があります。千本格子の入った木造平屋。徳川後期の旅籠の原形をとどめる貴重な建物です。鈴木家は代々惣右衛門を名乗り「玉屋」の屋号で旅籠を営んだといわれています。

●水戸藩専用の「小金御殿」

小金宿は千住、新宿、松戸につぐ 4 番目の宿。水戸街道は水戸藩にとっては水戸家と江戸をつなぐ重要な道路で、小金～水戸間の道路は水戸藩が管理していたといわれます。

当時、水戸～江戸間は 2 泊 3 日の行程。水戸藩では土浦と小金を指定の宿泊地としていました。このため小金には通常の本陣の他に水戸藩専用の本陣が置かれ「小金御殿」などと呼ばれました。鷹狩でしばしば小金を訪れたという光景をはじめ、水戸藩主が宿泊しています。

●関東十八壇林の東漸寺

小金宿の中町に東漸寺があります。浄土宗に帰依した家康は慶長 7 年 (1602) 浄土宗関東十八壇林を定めていますが、そのひとつでもある名刹です。壇林とは僧侶の修行寺のことで、十八壇林には芝増上寺、小石川伝通院などがあります。



浄土宗の僧、経譽愚底が文明 13 年 (1481) に根木内 (ねぎうち) に創建、16 世紀ごろ現在地に移ったといわれます。16 世紀の東葛地方の政治の中心地であった小金城に高城氏が定着した時期と一致しています。江戸時代には末寺三十か寺を超える寺勢を誇ったといわれています。

境内は約 5,800 坪 (約 1 万 9,000 平方メートル) と広く、松並木のある参道が長々と続きます。本堂の手前左には、しだれ桜の大有りがあり、春には境内を美しく彩るということです。



●本土寺道の道標

街道に戻りしばらく歩くとイオンわきの交差点。旧道はここを右に曲がり、小金横町を通過して根木内へ。イオンがある場所は元八坂神社があったところです。交差点を直進すると本土寺



にいたる本土寺道ですが、今は常磐線によって途切れてしまいました。交差点わきに「平賀 本土寺道」の道標が建っています。側面に「文化五戊戌 (つちのえいぬ)」と刻まれました。文化 5 年は 1808 年。

(つづく)

※街道探検の詳細は、町会のホームページをご覧ください。